

認知症の方がいつまでも暮らせるまちづくりを目指して (長崎県大村市)



実施主体

長崎県大村市

本事例のポイント

- ・ 切れ目のない支援を提供するための認知症総合相談体制
- ・ 認知症の人を地域で支援するための人材育成とネットワークの構築

大村市の高齢者人口推移・認知症対策の対象者

■ 本市の高齢者人口の推移(見込)

	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019	2020	2025
総人口	92,758人	92,765人	92,771人	92,781人	92,789人	92,796人	92,266人
前期高齢者 65~74歳	11,019人	11,269人	11,517人	11,767人	12,015人	12,264人	11,443人
後期高齢者 75歳~	10,399人	10,639人	10,880人	11,119人	11,362人	11,601人	13,805人
高齢化率	23.09%	23.62%	24.14%	24.67%	25.19%	25.72%	27.36%

約2500人増加

国立社会保障・人口問題研究所が公表した資料による

大村市の認知症対策の対象者

平成30年6月現在

■ 認知症有病者数の推計
高齢者人口 23,207人 × 15%

3,481人

■ 軽度認知症(MCI)有病者数の推計
自立等高齢者数人口 19,726人 × 13%

2,564人

認知症総合相談体制の構築

大村市地域包括支援センターの中に
「認知症の相談窓口」ができました



認知症総合相談体制の構成図

～認知症初期集中支援チーム・認知症地域支援推進員の役割～



利用者に対する支援体制が相談に至る前から相談後までしっかり構築されているため、切れ目のない支援を行うことができる

○認知症の人を地域で支援するための人材育成

認知症支援リーダー養成研修について

平成29年度認知症サポーター養成講座

「認知症支援リーダー」とは…

“大村市”と“大村市医師会”が認定
する大村市独自の認定資格



今後の認知症対策の中心を担う人材育成の掘り起し

＜ 認知症支援リーダーの役割＞

- かかりつけ医、認知症サポート医との連携強化
- 市民からの認知症に関する相談対応力の強化
- その他、市および医師会が実施する認知症施策への協力



＜推進に向けてのテーマ＞

次世代に向けてのアプローチ(人材育成)



＜アプローチ先＞

■次世代へのアプローチ

- ①小中学校 学校内：三城小5年生、郡中学校
学校外：中央小学校（健全教主催）
- ②高校関係 大村城南高等学校(福祉系選択者)
大村高等学校(家政科 医療福祉系選択者)
向陽高等学校福祉学科

③各医療系大学および専門学校

- ・活水女子大学 看護学部
- ・長崎リハビリテーション学院
- ・向陽学園 看護専攻科
- ・大村市医師会看護専修高等学校



各地域に「認知ボランティアホットライン」を設置予定。認知症支援リーダー取得者に「地域のホットラインの窓口」として活躍してもらうことを計画中。

○認知症の人を地域で支援するためのネットワークの構築

高齢者等見守りネットワークに関する動き



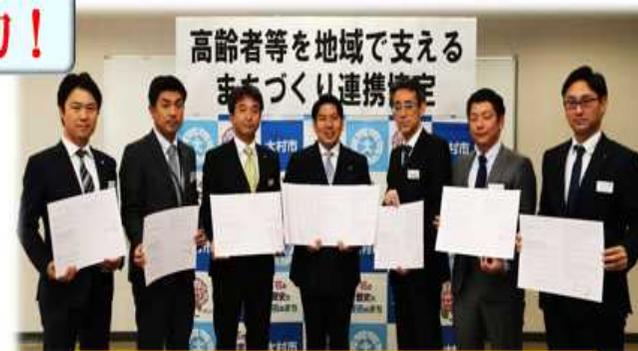
製薬会社

認知症の理解促進
行政・医療・介護連携支援
地域づくり促進支援

活動内容

- ・医療介護の専門職への研修会(認知症関連)
- ・行政医療介護等の関係機関の連携強化支援

全国初!



認知症関連製薬会社(6社)

企業・民間団体・公共機関等と連携して見守りネットワークを構築し、地域で認知症の方を支援する人材育成を行うことで「住み慣れた地域でみんなが支えるまちづくり」を大村市は作り上げている